

平成27年度 第1回小城市協働によるまちづくり検討委員会 議事録

- 開催日時 : 平成27年5月22日(金) 午後2時～午後3時50分
- 開催場所 : 小城市役所 西館 2階 大会議室
- 出席委員 : 五十嵐委員、安德委員、本村委員、原口委員、眞子委員、秋丸委員、山田委員、東島委員、原委員、大野委員、大坪委員、西岡委員、中島委員、石橋委員、古川委員、光石委員
- 事務局 : (総務部 企画政策課) 大橋企画政策課長、池田市民協働推進係長
- 関係課職員出席者数 : 7名
- 傍聴者数 : 2名

《 議 事 録 》

午後2時1分 開会

1. 開 会

○大橋企画政策課長

それでは、レジュメに従いまして会を進めさせていただきます。

最初に、委員の交代について御報告をさせていただきたいと思います。委員名簿のほうで3番、小城市区長連絡協議会本村廣太様、前回の区長の連絡協議会の会長が辞任をされました、そして、本村廣太さんがその後任として就任されましたので、本村廣太さんにこの検討委員会の委員になっていただくようお願いをしております。

もう一方ございます。9番の、今日は欠席になりますけれども、小城市PTA連絡協議会、唐島由晃さんについても会長の交代ということで今回新たに就任をしていただいております。

もう1つ、一番下の事務局のところですが、総務部企画政策課となっております。昨年度までは企画課と言っておりましたが、この4月から機構改革によりまして課の名称が変わっておりますので、御承知おきいただければと思います。

それでは、ただいまから平成27年度第1回小城市協働によるまちづくり検討委員会を始めさせていただきます。

では、委員長挨拶、よろしくお願いいたします。

2. 委員長あいさつ

○五十嵐委員長

皆さんこんにちは。委員長の五十嵐でございます。新年度になりまして第1回目の検討委員会でございます。まだまだ委員会として現状についての共通認識がととも得られている段階ではございません。まだまだ勉強をしながら、勉強会を重ねながら検討を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速、議事に入らせていただきます。

まずは、26年度第3回、前回の委員会の振り返りを行いたいと思います。事務局、よろしくをお願いします。

3. 議 事

○池田市民協働推進係長

企画政策課市民協働推進係の池田です。よろしくお願いします。

議事の1番。「平成26年度第3回検討委員会の振り返り」をしたいと思います。

昨年度3月23日に開催をしましたが、小城市の人口の集計、平成17年・26年の3月末現在の行政区別の人口一覧表により、9年間の間に小城市でも人口が減少し、高齢化が進んでいることをお示ししました。また、市民アンケートですけれども、2,000名の方を対象に実施した市民と行政との協働によるまちづくり市民アンケートの速報ということで、単純集計とクロス集計によって簡単に説明をしました。そして、4月に実施しました市内の行政区、各種団体を対象にしたアンケートの実施内容について説明をしました。

以上が平成26年度第3回の検討委員会の内容です。

その中で行政区ごとの人口一覧表ではイメージがつきにくいという意見がありましたので、今回、行政区ごとに高齢化率、年少人口率を地図に落としてみました。

資料1-1、1-2、A3の資料をごらんください。

資料1-1が高齢化率を示した地図です。資料1-2が年少人口率を示した地図です。

それぞれ住民基本台帳に基づくもので、左の地図が平成17年3月末現在、右の地図が平成27年3月末現在ということで、合併当時と現在を比較したものです。

まず、資料1-1、高齢化率の地図を見てください。左下のほうに割合の色を書いています。35%以上が赤色、30~35%がオレンジ、濃い黄色。25~30%が黄色、20~25%が肌色、

15～20%が紫色、10～15%が水色、10%未満が緑色になります。平成17年と平成27年見比べると、明らかに赤色35%以上やオレンジ色の30～35%の地区がふえています。三日月地区でも高齢化率は低いものの、水色10～15%から紫色の15から25%へと高齢化が進んでいます。また、山間部、芦刈地区で高齢化が進んでいるように見えますが、小城町、牛津町の中心部でも高齢化率が35%以上の地区、赤色の地区が目立っています。小城市全体で10年間の間に4.7%高齢化率が高くなっています。これを人数にすると、65歳以上の方が1,878人増えているということになります。高齢化率が35%以上の行政区、赤色の地区ですけれども、平成17年、11あります。平成27年は45と、34行政区増えていることになります。また、180行政区のうち45の行政区が高齢化率が35%以上ということは、小城市全体で25%以上の行政区で高齢化率が35%を超えていることになります。

資料1-2をごらんください。年少人口率を示した地図です。左の下のほうに割合をこちらのほうも書いています。25%以上が緑色、20～25%が水色、15～20%が紫色、10～15%が肌色、5～10%が黄色、5%未満が赤色になります。赤や黄色の年少人口が10%未満の地区が増えていることが見てとれるかと思えます。小城市全体で10年間の間に年少人口率は1.9%減少していますけれども、これを人数にすると、14歳以下の人口が1,115人減少していることになります。また、平成27年、14歳以下が5%未満の地区が14行政区ありますが、そのうち6行政区は一人も14歳以下がいない地区となっています。

以上で、前回検討委員会の振り返りと補足を終わります。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。

ただいまの前回委員会の振り返りの説明につきまして何か御質問、御意見ございますでしょうか。

今日お示しいただいたこの地図、いろいろ思うところが出てこようかと思えます。17年から27年までの10年間ですね。この後、37年の予測の図面が、続けて大変でしょうが、時間を見てつくっていただきたいとは思いますが。何か御質問、御意見ございますでしょうか。

今日、この後、主に協議しますのは、アンケート結果でございます。そのアンケート結果の内容等についても分析する上で、この高齢化率、あるいは年少人口率の地域別の違い、こういったことも参考にしながらいろいろ御意見を伺えればと、そのように思っております。

それでは、議事の2、市民と行政との協働によるまちづくりアンケートの集計結果について

て事務局より御説明をお願いいたします。

○池田市民協働推進係長

議事の2番目。「市民と行政との協働によるアンケート（市民アンケート）集計結果について」説明します。

資料2になります。表紙に小城市協働によるまちづくり推進事業市民アンケート調査【報告書】と書いてあります。

前回の検討委員会では、速報ということで単純集計とクロス集計で御説明をしましたが、今回、報告書を作成しております。

まず、1枚開いて1ページ目をごらんください。

19歳以上の市民2,000名を無作為に抽出して、平成27年1月から2月にかけて調査を実施しています。761人の方に回答をしていただいています。回収率は38.1%でした。

下のほうの表になりますけれども、居住区別の構成割合です。

3ページから6ページですけれども、回答者の属性です。性別、年齢別、居住年数、職業別、家族構成を記入してあります。

3ページ。アンケート回答者の年齢別構成比を見ると、60歳代・70歳代の構成比がそれぞれ20%を超えていますが、年齢が若くなるにつれてアンケートの回収率が低くなっていることがうかがえるかと思えます。

6ページ。家族構成ですけれども、家族構成を見ると、特に60歳以上になると、夫婦のみの世帯の割合が高くなっていて、70歳以上になると、1人世帯、夫婦のみの世帯が51.5%と50%を超えています。

7ページから24ページが調査結果になっています。

『問7 地域についての関心』。地域についての関心は、「非常に関心がある」の割合が11.8%、「ある程度関心がある」が59.9%で、全体で約7割が関心を示していらっしゃいます。一方、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合計した関心がないという割合は26.2%と、およそ4人に1人という割合になっています。

9ページ。『問8 市民活動への参加状況』。「過去一年間で、市民活動や地域活動などの活動に参加したことがありますか。」という問いに対しては、年齢別では40歳代で最も高くなっています。一方で29歳以下の参加率は3割未満で、ほかの年齢層を大きく下回っています。40歳代が活発に参加をされていて、若い方の参加が少ないという結果になっているか

と思います。

続いて、10ページ、11ページ。『問9 参加団体』。「過去一年間で、どのような活動団体の活動に参加しましたか。」という問いに対しては、皆さん「自治会で」活動されているということで61.2%が最も多くなっております。11ページ。年齢別で見ると、年齢が若い層ほど消防団の割合が高く、30歳代・40歳代では子どもさんがいらっしゃるということもあると思いますが、「学校で」「子ども会で」「PTAで」という回答が多くなっています。また、50歳代・60歳代では「自治会で」、70歳代では「個人で」「老人会で」と、それぞれ年齢層によって活動団体の差が見られるかと思えます。

続いて、12ページ、13ページ。『問10 参加して良かった点』。「活動に参加して良かった点はどのようなことですか。」という問いに対しては、4割近くの方が「近所付き合いが広がる」ということで良かったということを挙げていらっしゃいます。続いて「地域の情報を得ることができる」「地域に貢献できてうれしかった」というような回答が続いています。

次、14、15ページ。『問11 負担を感じた点』。「活動に参加して一番負担を感じた点はどのようなことですか。」という問いに対しては、「特にない」と答えた方が4割近くいらっしゃいますけれども、およそ6割の方が何らかの負担を感じているということが見てとれるかと思えます。負担を感じている点としては「時間がとられること」という割合が34.8%と最も高くなっています。次に「役員になりそうなこと」「人間関係がわずらわしいこと」などが続いています。

15ページ。年齢別でみると、29歳以下では「特にない」の割合が高く、また、30歳代で「時間がとられること」、40歳代・50歳代では「役員になりそうなこと」など、それぞれの年齢層で意識の差があるかと思えます。

続いて、16、17ページ。『問12 参加していない理由』。「活動に参加されていない理由はどのようなものですか。」という問いに対しては、「どのような活動があるかわからない」の割合が31.4%と最も高く、次いで「時間が取られる」「活動するための知識や技術がない」「気をつかうのがわずらわしい」等が挙げられています。

17ページ。年齢別でみると、29歳以下で「時間が取られる」、29歳以下、30歳代の若い層では「どのような活動があるかわからない」、70歳以上では「活動するための知識や技術がない」「気をつかうのがわずらわしい」などがそれぞれの年齢層で違いがあるかと思えます。

続いて、18、19ページ。『問13 地域活動評価』。「住んでいる地域では地域活動は活発であると思いますか。」という問いに対しては、「非常に活発」と「ある程度活発」を合計すると、半数近くが活発であると回答されています。校區別に見ると、特に岩松校区、砥川校区で活発という割合が他地区を大きく上回っています。性別で見ると男性が多く、年齢別では40歳代で活発の割合が他の年齢層を上回っているかと思えます。29歳以下、若い方は3人に1人が「わからない」というふうに答えられています。

次に、19ページ。『問14 地域活動を活発にするために必要と思うこと』。「地域活動を活発にするためには、主に何が必要ですか。」という問いに対しては、「みんなが気軽に参加できる地域イベントを開催する」の割合が5割近くということで最も高くなっています。

20ページ。年齢別でみると、29歳以下で「若い世代などの幅広い人たちへの参加を呼びかける」「活動内容を知ってもらうための情報発信を活発にする」が挙げられています、情報発信、参加の呼びかけによって、若い世代の方が地域活動に参加するきっかけができるのではないかと思われます。

続いて21ページ。『問15 より良いまちづくりを進めるため重要と思うこと』。「行政がやるべきこととして特に重要なことはなんだと思いますか。」という問いに対しては、「市民のニーズや地域の課題を把握する」の割合が47.4%と最も高く、ほぼ並んで「市民がまちづくり活動に参加するきっかけをつくる」も同率となっています。続いて「市職員が積極的にまちづくりに参加する」が挙げられています。

次のページ、22ページ。年齢別でみると、29歳以下で「市民がまちづくり活動に参加するきっかけをつくる」が高く、年齢が上がるほどに「まちづくり活動の担い手を育成する」の割合もふえる傾向にあります。

次の23、24ページ。『問16 より良いまちづくりを進めるため市民ができること』。「市民ができることはどのようなことだと思いますか。」という問いに対して、「地域の課題を話し合う場をつくる」の割合が38.8%と最も高く、ほぼ並んで「市政や地域活動情報を積極的に収集する」「地域活動の内容を積極的にPRする」が続いています。以下、「活動したいことを自由に発言できる環境をつくる」「活動をひっぱりリーダーを育成する」等、全体で見ると大きな差は見られませんが、次のページ、年齢別でみると、年齢が上がるほどに「地域の話題を話し合う場をつくる」の割合がふえる傾向にあります。また、29歳以下では「市政や地域活動情報を積極的に収集する」「活動したいことを自由に発言できる環境を

つくる」、40歳代では「活動をひっばるリーダーを育成する」などがそれぞれの年代を上回っています。これをみていると、年代でいろいろ意見の差があると感じました。

25ページから36ページまでが、みんなと共につくるまちづくりについて自由意見集約結果です。

以上で市民アンケート集計結果について説明を終わります。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。単純集計から、さらにクロス集計といいますけれども、そういうことを操作しているということもありまして、かなり結果がまず分量が多いです。さらには、ちょっとは分かりにくいようなところもあるかもしれません。

まずは、このアンケート結果の分析内容につきまして御質問ございますか。ちょっと事実確認をしたいとか。グラフがちょっとモノクロ印刷なので見にくい点はあるかと思いますが、御質問はございませんか。

それでは、意見や感想でも結構です。どうしましょうか。順を追って見ていったほうがいいのか。

まず、ページ開いていただきまして、3ページにどういう人が回答をしたかということです。どういう人が回答したかによって、それ以降の分析結果に多少影響することも当然あり得ますので、前提として回答した人たちの属性をちょっと確認をしたいと思います。

女性のほうが若干多かったということです。それから、アンケートに答えていただいた方が761名だということです。あとは年齢別で見えていますけれども、若干若年層といいますか、30歳以下の回答が少な目かなという気はいたします。

それから、4ページに居住年数ですね。ちょっとこのあたりは私は小城市の者ではないので、この居住年数のところ、ちょっと説明がなかったから確認したいんですけど、居住年数が比較的長いのは傾向としてどの地区から得られているんですかね。

○池田市民協働推進係長

長い地区ですか。

○五十嵐委員長

うん、芦刈ですか。

○池田市民協働推進係長

芦刈です。

○五十嵐委員長

芦刈ですね。68.2%が一番、これは30年以上という意味ですかね。

○池田市民協働推進係長

そうですね、30年以上ですね。

○五十嵐委員長

全体で48%の人が30年以上居住していると、小城で47.7%、三日月で41.9%、牛津で48.9%、芦刈で68.2%。当然のことながら、年齢が高くなれば居住年数が高いということになります。こういったこともちょっと後でアンケートの結果を分析するときに、頭の中に置いておいたほうがいい前提かもしれません。

5ページに行きますと、職業別です。これは特に問題となるようなことはないのかな。そうですね。性別と職業別ですね。

6ページに行きますと、今度は家族構成です。答えた方で一番多いのが割合でいうと、二世帯世帯ですか、全体的に多いのは。

○池田市民協働推進係長

そうですね。

○五十嵐委員長

親と子の二世帯世帯ですよ。全体で46%が二世帯世帯と答えているということです。次いで夫婦のみ、それから、三世帯、単身というような順番になりますか。これが答えた人の前提です。

それを踏まえまして、7ページ以降、項目ごとにどういう傾向があるかということで御説明がございました。

まず、7ページの地域について関心がどれくらいあるかという問いです。この問いの7ですね。地域について関心があるかどうかの答えについて何か御意見でも御感想でもございましたらお願いします。

「非常に関心がある」というのが三里地区が一番高いです、20%ですね。次いで地区でいうと、桜岡、砥川というような順序になります。僕がずっといろいろ聞いていて、ちょっと違いがよく見えるのが小城地区だと三里と晴田が結構違いがあるのかなという印象私持ちました。ここの地域についての関心のところでも、三里が高くて晴田が小城の中では「非常に関心がある」が少なく。「ある程度関心がある」ということを加えても、この三里と晴田の

違いがちょっと大きいかなという印象を私持ちました。皆さんいかがでしょうか。三日月のほうは、そんなに大きな違いがないのかなという気もいたします。

それから、性別で見ますと、やはり男が「非常に興味がある」という答えの割合が高い。

年齢で見ると、やっぱり年齢が高くなればなるほど関心が高くなるということですが、40歳と50歳で、50歳でちょっと落ちますね。年齢が高くなるにつれて「非常に興味がある」というのが増えていくんですが、50歳でちょっと下がっているという傾向があります。

このあたりいかがでしょうか。私、地域のことはまだよくわからないんですが、三里と晴田のこの違い、どういったところに起因するのかなというような印象がございます。晴田というのは結構新興住宅ということですか。

○眞子委員

高齢化率。

○五十嵐委員長

高齢化率と……

○眞子委員

先程の説明のあった率と。

○五十嵐委員長

はい。そうですね、先ほどの地図でもありましたけれども、三里地区は高齢化率が高い地域で、ある意味、危機意識みたいなものが高いというようなことが背景としてあるのかなという気はいたします。

この地域への関心のところで何か御意見、御感想ございますでしょうか。思いつきでも構いませんよ。この検討委員会もう自由に発言して結構ですから。

それでは、次の9ページですね。

市民活動への参加状況で参加経験を問うているものです。「参加したことがある」ということでいいますと、これやっぱり三里地区が非常に高くなります。旧小城でいいますと、やっぱり三里が高くなりますが、それ以外はそんなに大きな違いはございません。旧牛津では砥川が高くて、ほかはそう違わないという形になります。性別でいうと、やっぱり男のほうに参加した経験がある率が高くなります。年齢別でいいますと、40歳代が特に高くなります。これは後の問いにも関係しますが、多分子育て世代で子どもに関連するような行事への参加率が高いのかなという印象がございます。

このあたり何かございますか。三里がいろんな行事をやっているという意味ではないんでしょうかね。

○原口委員

多いです。

○五十嵐委員長

やっぱり多いんですね。行事自体が多いんでしょう。ですよ。

そういうことだそうです。三里地区は行事そのものもやっぱり多いと。だから、活動に参加する機会がもともと多いということも多分関係しているだろうと思います。

○原口委員

たしか子どもクラブの発表会とか、結構やっていますから、

○五十嵐委員長

なるほどね。はいはい。

○西岡委員

女性の活動を多いように見えるのですがこの結果だと、男性が非常に多いというのは不思議ですね。

○五十嵐委員長

恐らく、例えば、草刈りだとか、その手のものが多いんじゃないですか。違うんですか。参加の活動の内容までこれでは分からないから。

○池田市民協働推進係長

そうですね。

○五十嵐委員長

男のほうが高いというのは、そんなもので。僕も女性のほうが高いと思ったんですが、男がこれだけ出てくるのは何ですかね。自治会の方おられますか。やっぱり男が出んといかんぞみたいなやつが多いんですかね。活動の内容によるんでしょうね。PTA行事は大体女性ですもんね、圧倒的にね。

○池田市民協働推進係長

そうですね。

○五十嵐委員長

ちょっとこの男が多いというところは後で分析をしてみたいとは思っています。

逆に参加したことがないというところで見ると、比率が高いのが牛津ですかね、牛津校区が参加したことがないというのが半数を超えるんですね。52.7%ですよ。半数の人が牛津では参加したことがない。牛津はあんまり行事がないということですか。

○中島委員

行事はあっているんですが、やっぱり子育てで家を買われたりした、余り関わり合いがない人がおられる地区も結構多いからですね。

○五十嵐委員長

ああそういうことですか、なるほどね。はい、分かりました。

それと、年齢別でいいますと、やはり29歳以下は活動に参加する割合がかなりぐんと落ちます。29歳以下はですね。これはどこの地域でも同じような傾向がありますけれども。はい、ありがとうございます。

じゃ、次、ページめくっていただいて、10ページですね。そういう活動はどんな団体の活動かということで、これは大体常識的に自治会活動が圧倒的に多いだろうと思っています。学校、子ども会、老人会、NPOやボランティア、職場、PTA、消防団、これは特にそんなに大きな問題点が見えそうな課題ではないかもしれません。恐らく今後、仮に校区単位でこういう活動をするようになっていくと、自治会にかわって、学校、子ども会、NPOやボランティア、PTA、こういったところでの活動の機会がふえてくるというふうに考えると、協働のまちづくりで何で自治会を越えて、例えば、校区単位なんかでしなければいけないということがある程度イメージできるのではないかなと、そんなふうに思っています。

11ページは、それをちょっとクロス集計したものですよね。自治会での活動の割合が多いのが三日月地区ですね。学校単位でのものになると小城、子ども会だと牛津ですね。こういう傾向がございます。このあたりは何か御意見ございますか。三日月地区の自治会活動が多いとか、三日月地区の自治会活動は出不足金が高いとか、何か理由あるんですかね。三日月地区で高い傾向を示すのは、どなたか分かりませんか。

それでは、ページめくっていただきまして、12ページ。参加して良かった点についての回答です。「近所付き合いが広がる」というのが多いということになりますが、「地域の情報を得ることができる」「地域に貢献できてうれしかった」とかいうところが出てまいります。例えば、「近所付き合いが広がる」というところではいいますと、次の13ページでそういったことに良かったと感じているのは三日月地区、それから、小城地区あたりがちょっと高目に

なります。芦刈だと、「近所付き合いが広がる」というのはそんなに高い結果ではない。今さら近所付き合いをふやさんでもいいというのは多分芦刈の多くの人たちなのかなという気はしますが。恐らく新興住宅なんかが入っているところは、こういった活動を通じて近所付き合いが広がるというふうに印象を持っている可能性はございます。よろしいでしょうか。

ちょっと可能性を感じるのは、29歳以下のところで「地域に貢献できてうれしかった」というような答えが、ほかの年齢と比べると高いんですね。つまり、若い世代はそういう機会さえあれば、それなりに地域に貢献できたという実感といたしますか、そういったことが感じられるということです。だから、いかに若い世代を活動に引き込むかということは極めて重要だろうというのは、こういう数値からちょっとうかがえると私は思います。

次、14ページです。負担を感じる点ですね。これも大体常識的なところなのかなという気はいたします。右側とも、これクロスして考えるとよくわかりますが、時間をとられるというふうに答えた割合でいいますと、やはり30歳代が一番高いですね。かなりの割合で30歳代が時間をとられるというふうに感じるわけです。これはやっぱり子育て世代だということと、30歳というのはまだまだ遊び盛りだから、結構あちこち遊びに行きたいんですね。でも、土日等で時間をとられるということが多分出るだろうと思います。

あとは牛津地区で若干時間がとられるというところの比率が高くなっています。

よろしいですか。何か途中思いついたことがあったら、間に入って質問、意見してくださいよ。

16ページ。参加していない理由のところですね。これもある程度予想がつくんですが、「どのような活動があるかわからない」というのがかなりの比率を占めています。「どのような活動があるかわからない」ということでいいますと、地域別で見ると、三日月地区がちょっと高いんですね。これは何ですか、三日月地区は回覧板をやっていないとか何かあるんですか。

○池田市民協働推進係長

そうですね、三日月のほうでは回覧板は……

○五十嵐委員長

ない。

○池田市民協働推進係長

ないですね。

○五十嵐委員長

あんまりない。ああ、そうですか。やっぱりそういうのは影響するんですね。

○原口委員

回覧板、全然ゼロですか。

○池田市民協働推進係長

そうですね。

○五十嵐委員長

ああ、そう。それは合併前から。

○池田市民協働推進係長

合併前はありましたね、幾らか。

○五十嵐委員長

合併後なくなったんですか。

○池田市民協働推進係長

合併の少し前からじゃないのかな。

○原口委員

そしたら、広報活動とかどんなしよるね。

○池田市民協働推進係長

私の住んでいる地区では、チラシですね。各家庭へチラシで自治会活動についても情報提供されます。あとは、行政防災無線を使ったり……

○原口委員

ばってん、あれよう聞こえんじゃない。

○五十嵐委員長

はい、何かそういう事実がどんどん明るみに出てきますので、思いついたことどんどん言ってください。何でやろう、何でやろうと考えると、ちょっとわかってくると思います。

仮に回覧板があったとしても、僕もそうですが、若い世代はあんまり見ないんですよ。僕は年寄りだけでも、回覧板はほとんど見ないんです。いつも女房に怒られるんですけど。年齢が高いほどやっぱりまめに回覧板を見ているから、情報が入ると思います。若い人はなかなか情報が入らないということでしょうね。

それと、ちょっと私、意外だったのは、70歳以上で「活動するための知識や技術がない」

というのがこれ20.5%なんですけど、そんな難しい活動をしているんですかね。活動の内容がよくわからないんですが、高齢者の方々にとって知識や技術を必要とする活動ってどういうものなのかな。イメージできないんですけど。まあ、いいです。

○秋丸委員

70歳以上という、上は何歳ぐらいまで。80、90。

○五十嵐委員長

答えた人。

○池田市民協働推進係長

70歳以上は80歳まで送っています。

○秋丸委員

79。

○大橋企画政策課長

80歳ぐらいの回答者となっております。

○秋丸委員

80歳や。

○大橋企画政策課長

はい。

○五十嵐委員長

70歳以上で終わりなんです。何歳以下まで切っていないんですよ。

○大橋企画政策課長

はい、切っていないです。

○五十嵐委員長

だから、80歳の方が答えている可能性もあります。

あと「気をつかうのがわずらわしい」というのは、活動に参加するかしないかでかなり動機としては僕大きいと思っているんですよ。友達がふえてうれしいとか、それを求めている人は当然いますけれども、逆にあんまりせからしかというのは、この気を使いたくないというのですか、これで三日月がちょっと高いんですよ。だから、傾向としてまた三日月もちょっとおもしろいと思うんですが、三日月の人は何ですか、やっぱり個人主義的なんですか。本当はこういうのを分析するためには、もっとさらに分析をします。年齢別で地域別を

クロスさせてとか、もっと細かな統計操作をして分析することも可能なんですけど、必要であれば、何かこれやってみてというのがあればまた言ってください。

次、18ページ、地域活動評価ですね。このあたりもかなり僕特色が出ているなと思っていて、あなたが住んでいる行政区で地域活動は活発であると思うかどうかというところですね。全体の平均が7.5%なんですけど、かなり高い割合で非常に活発だと答えているのが三里、牛津、砥川あたりですかね。逆に晴田は、これ惨たんたる状況ですよ。1.8%ですか。

○池田市民協働推進係長

はい、1.8%ですね。

○五十嵐委員長

そんなにほとんど活発に行事をしていないということなんですか。

○関係課（小城公民館係長）

いや、済みません、公民館の者ですが、晴田校区もかなりいろいろな活動はされています。たまたまなのかなと、ちょっと私もこの意見に関しては不思議に思います。

○五十嵐委員長

ああ、そうですか。実態とはかなり違う印象という意味ですね。

○関係課（小城公民館係長）

そうですね。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。何をもって活発かというのはかなり主観が入りますのでね。数さえ多ければ活発かということでもないでしょうし。

あと何か特色が出ますかね、こここのところで。よろしいですか。

次、19ページですね。地域活動を活発にするために必要と思うこと。これもある程度予想されることですが、「みんなが気軽に参加できる地域イベントを開催する」というやつですよ。それから、若い世代に呼びかけるとかですね。このイベントも自治会単位でやるイベントというのは、そんなに新しいイベントってできないでしょう。そうですね。毎年、大体同じようなイベントを何月にやってという感じですよ。だから、これを仮に、例えば小学校区単位で協働でイベントをやるになると、新しいイベントのアイデアが当然出てくるわけです。このあたりよろしいですか。何かおもしろい結果ございますか。

それを20ページで地区別、年齢別で見ているわけですが、これも結構私おもしろいと思っ

たんですが、気楽に参加できるイベントをふやすというのは若干若い世代の比率が高いですね。それから、三日月地区でもそういう要望がどうもあるようだという印象がございます。

右側21ページです。今度は行政が何をせんといかんのかというところで、このあたり「市民のニーズや地域の課題を把握する」「市民がまちづくり活動に参加するきっかけをつくる」「市の職員が積極的にまちづくり活動の参加する」と、こういったところの割合が高くなってきます。実はこの後、今後の予定がちょっと計画されていますけれども、検討委員会と市の職員との間でちょっとしたワークショップみたいなのをやろうと思っっているんですけど、この21ページにあるような市民ニーズ、市民としては行政にこういうことを期待しているわけですね。こういったことについて行政はどんなふうにかんがえるかというふうなことを、やっぱり行政側からはそれなりのコメントが欲しいと私も思っています。

22ページです。この問いに関する地区別、あるいは年齢別のものですね。例えば、22ページの「市職員が積極的にまちづくり活動に参加する」という項目でいいますと、牛津地区がかなり高い割合でそれを望んでいるということです。何か牛津の方は市に不満が多い地域ですか。（「不満たらたらです」と呼ぶ者あり）不満たらたらですか。細かにずっと検討する必要がありますね。

それから、23ページですね。今度は市民です。市民が何をせんばいかんのかというところで、「地域の課題を話し合う場をつくる」、これは非常にうれしい答えだと思います。つまり、みんなで話し合わんといかんと思っっている人はいるわけですね。じゃ、話し合うから集まれといったときに集まってこないというところが一番の問題になるわけですが、ニーズとしてはやはり話し合う場をつくるということはニーズとしてはちゃんとあるということです。それから、自分たちで情報を積極的に集めんといかんというような答えもあります。

24ページはその最後ですけども、地域別、年齢別の傾向です。これでいいますと、だから、芦刈は行政にいろいろ不満はあるんだけど、自分たちで話し合わんばいかんとちゃんと思っっているわけです。だから、健全なんですよ。私から言わせれば。それから、牛津が自分たちで情報を集めんといかん、と同時に発信もせんといかんと思っっていると。三日月あたりになると、あんまり違くないか。リーダーのところは大体皆同じですよ。みんな思っっています。というようなところでございます。

全体を通して何か感想なり御意見ございますか。これ自由意見もずっと読んでいると、結構おもしろいんですよ。自由意見、結構生々しくてですね。暇だったら、この自由意見も

まめに読んでください。よろしく申し上げます。

後でまた団体や行政アンケート等を比べて御意見をいただくことになると思いますので、続いて、団体アンケートについて事務局から御説明をお願いします。

○池田市民協働推進係長

それでは、議事の3番目。「各種団体アンケート調査速報について」説明します。

資料の3-1、3-2をごらんください。

小城市各種団体アンケート調査の単純集計結果とクロス集計結果です。単純集計結果で御説明をしたいと思います。

116件配布をしております。有効回答数が79件ということで、回収率が68.1%になっております。

団体に配布した枚数ですけど、ちょっとメモしていただければと思います。民生委員・児童委員連絡協議会には4配布、4回答がっております。消防団には12配布、3回答がっております。婦人会には4配布、3回答がっております。老人クラブには4配布、4回答がっております。PTA連絡協議会には11配布、7回答がっております。青少年育成市民会議には1配布、1回答がっております。ボランティア連絡協議会には44配布、33回答がっております。体育協会、社会福祉協議会、それぞれ1配布、回答が1ずつっております。NPO法人には17配布、11回答がっております。協働の補助金活用団体には12配布、10回答がっております。その他のまちづくり団体には5配布、1回答がっております。ということで116配布をして79回答をいただいております。

一番回収率がよかったのが網かけをしておりますけれども、ボランティア連絡協議会ということで41.8%、4割以上が回答していただいております。

次、問1-2。『団体名』を記入してあるかないかということです。団体名を記入してあったのが97.5%でした。

問2。『主な活動地域』についてです。その他には県内全域という回答などがありましたので、約半数ぐらいの団体が市全域を対象に活動をされているという事になるかと思いません。

問3。複数回答になりますが、『主な活動内容』についてです。ページをめくって2ページになります、網かけをしていますが、「子どもの健全育成を図る活動」が回答数38。15.8%で一番多かったです。この活動に回答されているのは、PTA、ボランティア連絡協議

会、NPO法人、民生委員連絡協議会等でした。

1ページに戻りますが、次に多かったのが、回答数34。14.1%で「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」でした。この活動に回答されているのは、社協、NPO法人、老人クラブ、ボランティア連絡協議会等でした。

3番目に多いのが、回答数32。13.3%で「まちづくりの推進を図る活動」でした。この活動に回答されているのは、まちづくり団体、社協、補助金の活用団体、NPO等でした。

2ページ目に戻ります。問4。『活動年数』についてです。10年以上が一番多く、回答数54。68.4%で、7割近くの団体が10年以上活動を続けられています。主に地縁団体が回答されていました。3年以上5年未満、5年以上10年未満がそれぞれ10。NPO法人やボランティア連絡協議会、補助金活用団体などが、10年未満という回答が多かったです。

問5。『会員数』についてです。10人以上30人未満が43%で、10人未満も合わせて30人未満で活動をされている団体が65.8%でした。

問6。『活動に関する困り事』についてです。2つまで丸印をつけてもらっています。一番多かったのが、「会員が減少・不足している」で回答数44、34.6%。消防団、婦人会は回答団体全てで「会員が減少・不足している」と回答をされていました。続いて2番目に多かったのが「活動資金が不足している」で回答数22、17.3%。回答されているのはNPO法人や補助金活用団体などが多かったです。

3ページ目です。問7。『行政に求める支援』についてです。2つまで丸印をつけてもらっています。一番多かったのが「市民などへの、貴団体の活動内容の広報・PRに関する支援」で回答数31、22.8%。2番目に多かったのが「地域に貢献する活動を行う上での経済的支援」で回答数22、16.2%。回答されているのはNPO法人や補助金活用団体などが多かったです。

問8。複数回答になりますが、『他の団体との連携や協力』についてです。一番多かったのが「同様の活動をしている団体」で回答数60、35.5%。続いて2番目に多かったのが、「行政」、次に多かったのが「学校」です。

問9。複数回答になりますが、『活動の内容や案内の周知、広報』についてです。一番多かったのが「チラシ」で回答数34、27.2%でした。続いて「市報」で31、24.8%。「その他」というのも回答も多く内訳ですが、「会報・機関誌」12件、「口コミ」が5件、「テレビ・ラジオ」が4件、「広報をしていない」が4件ありました。

4 ページ。問10。『市民と行政が協働してまちづくりを進める上で、最も重要なこと』についてです。2つまで丸印をつけてもらっています。一番多かったのが「まちづくりへの市民参画を推進する」で回答数32、22.7%、2番目に多かったのが「地域のまちづくりのニーズを把握し、情報を共有する中で事業を展開する」で回答数25、17.7%と続いています。

問11。『今後、小城市が重点的に取り組むべきこと』についてです。3つまで丸印をつけてもらっています。一番多かったのが「急激な高齢者の増加への対応」で回答数37、16.4%。2番目に多かったのが「少子化対策」で回答数30、13.3%。少子・高齢化対策を重点的に取り組むべきだという意見が多いかと思いますが、3番目に多かったのが「地域力の向上や魅力ある地域づくり」で回答数25、11.1%でした。

問12。『今後の協働によるまちづくりのあり方について意見、提案』を記入してもらう自由意見です。半数以上の団体が記入をしていただいております。自由意見については次の自由意見の1ページから5ページまでに掲載しておりますのでお読みください。

資料3-2ですが、こちらはクロス集計結果です。クロス集計とは、質問項目をかけ合わせて集計する手法ですが、このクロス集計結果は、団体区分ごとに質問項目について回答件数、構成比率を記載しております。説明は省略しますが、後でご覧になってください。

以上で各種団体アンケート調査速報について説明を終わります。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。こちら自由記述のところがございます。先ほどの市民アンケートについてもそうですが、この自由記述のところ、ずっと今斜めで見たんですが、個人を何か特定できそうな回答がございます。自由記載のところですね。それもありません、このアンケート結果の、このペーパーの取り扱い、これを十分御配慮いただきまして、皆様の委員だけの手元で管理していただくものにしていただいて、こちらの数値のほうは誰に見せてもいいと思いますけど、こちらの自由記載のほうは委員様だけが厳重に管理してください。ちょっと個人が特定できそうな記載が結構あります。何とかの団体のリーダーがだめだとか書いてありますので、十分御注意してください。よろしく申し上げます。

それでは、こちらの団体アンケートについて、これ一つ一つ確認するつもりはございませんので、何か質問とか意見、感想ございましたら、どうでしょうか。何かお気づきの点とかございますか。問6あたりから思いがわかるような問いになっています。問6では何に困っているかと。予想どおり、特に消防団とか、婦人会は会員が減少・不足しているというよう

な答えがかなり上位になってきます。NPOは毎度そうですが、金が足りないというようなことが不満であるということでございます。

○秋丸委員

消防に関しても、ある程度PR等を幅広くやってもらって、県からも消防団に対して今まで以上に見てもらっているが、俺が言うといかんけど、昔の若者と今の若い人がもう全然考えが違う。その辺を改めてくれんといかん、今言ってるように、消防で言うと、親が入って役までして辞めた者が、息子に聞かんとわからんとか、息子は忙しかと言う。もう息子はそっちに向けて走るけん、まあ家族・親が、地域の中がおるなら、活動せんといかんと言ってもらわんことには、しなくてよかならもうせんとか、なんでせんば忙しいとか、そういう気持ちだから。なかなか啓発活動で幅広くチラシを配布したり我々なりに頑張っている。幅広く広報している。入る人はいないわけではないが、地域住民のために加勢する、自分が行かんば、するという気持ちが昔とやっぱり全然違う。そこの辺をどうかしないと。

○五十嵐委員長

はい、わかりました。

○秋丸委員

婦人会も、減っている。

○五十嵐委員長

はい、わかります。

○秋丸委員

気持ちは、婦人会と消防はもう一緒と思いますよ。

○五十嵐委員長

消防団については、これやっぱり防災上、絶対不可欠なもので、これはだから、県であれ、お役所等も一生懸命普及啓発活動をしています。それでもなかなか人が集まらないという点はあるかと思います。

一方で、私が知っている、例えば、県庁とか佐賀市役所は組織で消防団があるんですけど、小城市役所はあるの。

○眞子委員

小城は昔ありましたがなくなりました。

○五十嵐委員長

小城市役所は今ないんですか、消防団。

○大橋企画政策課長

ないです。

○五十嵐委員長

それはつukらないといかんね。

○眞子委員

我々も消防署のプロには負けんつもりでいた。合併したらなくなっていました。

○五十嵐委員長

そういったところも、これから議論の対象になっていくだろうと思います。いわば職域とか会社単位でのいわば消防団みたいなものがないと、もう立ち行かなくなっているという状況だという認識は当然必要だろうと私も思っています。

○秋丸委員

この辺では大きな災害はないが、あったときにはもう消防団、即出ないといけない。

○五十嵐委員長

はい、わかります。

○秋丸委員

その辺をやっぱり地域住民の方もある程度考えてもらって、頼るのはもう消防団しかないかと思うが。その辺ですね。

○五十嵐委員長

私が知っているところでは、ある村ですけど、消防団はあるけど、昼間何かあったときに皆勤めで村にいない。それで、昼間だけの消防団を老人会がやっているというところがあるんです。いや、そこまでしないと、昼間何かあったときにどうしようもないと。元消防団は昼間だけやるというような村が佐賀県内に出ているんです。

○秋丸委員

はいはい。

○五十嵐委員長

立派な村で。

○秋丸委員

それはあります。

○五十嵐委員長

そういうことも考えないといけない時代だということです。

婦人会の数を増やさないといけないというような声はあんまり出ないですよ。婦人会はなくなってしかたないみたいなのは、やっぱりどういう流れですか。婦人会をおやじたちが使い過ぎたと。

○秋丸委員

婦人会も消防と一緒に、若者がやっぱり入ってくれなから、やっぱりその辺が。段々譲りだから、上がずっと減って下から入ってこないから、もうゼロになる。

○原口委員

婦人会がもうそっくりそのまま老人会に移行している……

○五十嵐委員長

わかります。

○五十嵐委員長

若い女性がおられないということですね。はい、わかりました。

○眞子委員

うちの地域も婦人会が、ちょうど私が区長しているときに、組織をきちんとしようということになって、集落内での敬老会とかはと言ったら、それはまだ残しておく、そこはまだ婦人会として残しておいて集落のことはやると。ところが、さっき出たように、その婦人会がだんだん高齢化してきて、その方たちが今度は敬老会の対象になってきた。そうすると、これじゃ敬老会もやっていけんと、敬老会も今年から中止になりました。それで、今度は婦人会そのものもなくなりました。

○五十嵐委員長

そういう昔から当たり前にあった活動組織、そういったものが年々小さくなったり、場合によってはなくなっているんですが、一方、新しく出てきている組織も当然あるわけですね。それは例えば、まちづくり団体だとかNPOだったりするわけですけど、小城市のNPOというのは、これ毎年かなりふえていっているんですか。もうこれで限界くらいですか。NP
Oの関係者。

○西岡委員

まだふえると思います。

○五十嵐委員長

ふえていますね。まだまだね。やっぱりそういうのは新しい協働の担い手でもありますので、やはりNPO等の支援は絶対必要だろうと私も思います。

この団体アンケートのところで何かほかにお気づきの点ございますか。

問10と11あたりですかね、それぞれの団体が問10ですね、4ページ、市民と行政が協働してまちづくりを進める上で何が最も重要かと、最優先するものは何かということだと思いますと、「まちづくりへの市民参加を促進する」「地域のまちづくりのニーズを把握し、情報を共有する中で事業を展開する」、こういったところが強い意見として出ております。

それから、今後、小城市がどのようなことを重点的に取り組むべきだと考えているかと、高齢者対策と少子化対策、それが圧倒的だということになります。意外と道路の整備だとか、いわゆるこういったところはもうほとんど十分だというような意見ですよ。今さらそんなにハード整備しなくていいみたいな印象があって、それはやっぱり大きな傾向として住民の方はよく、団体の方も御理解されているのかなと、そんなふうに思いました。

続きまして、行政区（自治会）アンケートの速報値について説明をお願いします。

○池田市民協働推進係長

それでは、議事の4番目。「行政区(自治会)アンケート調査速報について」説明します。資料の4-1、4-2をごらんください。

小城市行政区(自治会)アンケート調査の単純集計結果とクロス集計結果です。単純集計結果で御説明をしたいと思います。

180行政区に配布をしております。有効回答数が154件ということで、回収率が85.6%になっております。

校区別の配布数ですが、メモしていただければと思います。

桜岡校区が16配布、13回答。岩松校区が22配布、20回答。晴田校区が30配布、23回答。三里校区が16配布、10回答。三日月校区が41配布、35回答。牛津校区が18配布、16回答。砥川校区が11配布、11回答。芦刈校区が26配布、24回答。合計配布数が180で有効回答数が154、回収率が85.6%でした。

問1-2です。『行政区名』を記載してあるとないかということです。

問2。『区長の年齢』についてです。60歳代が一番多くて7割以上を占めてします。お仕事をやめられて時間に余裕ができたためかなと思いました。しかし、問3。『区長の職

業』については、無職と答えられた方は3割近くで、自営、会社員が5割以上を占めています。

問4。『区長の在職年数』についてです。一番多かったのが1年で6割を超えています。1年と2年を合わせると、9割弱になります。後でクロス集計を見てもらったらわかると思いますが、三里校区と芦刈校区では2年以上在職の区長さんのがいらっしやいませんでした。

問5。『区長の選出方法』についてです。2ページ目になりますが、一番多かったのが輪番制で37.7%、2番目に多かったのが、1ページ目に戻りますが、総会等で協議して決定が26.6%でした。

2ページ目に戻ります。問6。『自治会への加入率』についてです。一番多かったのが、100%で57.8%、加入をしていない世帯がある行政区も4割近くあるということになります。

問7。『一世帯当たりの区費』についてです。回答の訂正をお願いします。30,000円以上の0が1つ少なかったです。また、15,000円未満から10,000円以上で円が抜けています。すみません訂正をお願いします。一番多かったのが15,000円未満10,000円以上で31.8%。全体的にみて、1カ月に1,000円から2,000円徴収しているところが多いかと思えます。後でクロス集計を見てもらったらわかるかと思えますが、30,000円以上の区費を徴収している行政区が三里地区で多く、5地区ありました。

問8。『行政区での活動計画や案内の方法』についてです。複数回答です。一番多かったのが「チラシの全戸配布」で回答数97、40.4%、2番目に多かったのが「回覧板」で90、37.5%。こちらも後でクロス集計を見てもらったらわかるかと思えますが、小城地区では回覧板という回答が多く、そのほかの地区ではチラシという回答が多かったです。この回答の中に防災行政無線・放送というのを回答項目を設けていませんでしたが、その他の欄に「放送」と書いてもらった行政区が10ありました。

問9-1から3。『行政区の活動の合意形成の仕組み』についてです。

問9-1 総会についてです。総会は年に1回開催をされているところが75.3%で一番多かったです。

問9-2 役員会についてです。役員会は3回以上開催をしているところが61%で一番多かったです。

問9-3 その他どういった合意形成の仕組みがありますという問いには、20%近くが総会、役員会以外の仕組みを持っていると回答されています。

問10。『区長としての行政区内の情報収集の方法』についてです。複数回答です。一番多かったのが「近隣世帯からの情報提供」で回答数133、40.5%、この回答はどの校区でも一番多い回答でした。2番目に多かったのが「市からの情報提供」で回答数79、24.1%でした。

問11。『行政区の構成団体(下部組織)』についてです。複数回答です。一番多かったのが「こども会・こどもクラブ」で回答数127、31.4%。老人クラブ、消防団、婦人会と続きます。「その他」の回答数が20ありますが、生産組合等を挙げられている行政区がありました。

問12。『団体の代表や役員等が集まる会合の回数』についてです。一番多かったのが、年2～3回で45.5%が、代表者や役員が集まる会合を開いていらっしゃいます。

問13。『認可地縁団体の認可』についてです。認可を受けているという行政区が39%。校區別に見ると、三日月校区、芦刈校区が多かったです。

問14。問13の「認可を受けている」と回答された行政区が回答されています。『自治会の会長と区長の別』についてです。区長と自治会長は同じという行政区がほとんどを占めており、93.3%が同じという回答でした。

問15。『行政区の活動内容』についてです。複数回答です。一番多かったのが「地域の清掃や美化活動」、4ページ目になりますが、「生活道路や街灯の管理」で143。続いて多いのが、「集会所の管理」で138。続いて多いのが、「祭りの実施」で130です。

問16。問15の活動の中で『行政区において最も重要な活動』についてです。問16-1が一番重要だと思う活動、問16-2が2番目に重要だと思う活動、問16-3が3番目に重要だと思う活動について記入してもらっています。

問16-1。一番重要な活動は「地域の清掃や美化活動」で40.3%、4割近くの行政区で地域の清掃や美化活動が一番重要だと回答をされています。

5ページになりますが、問16-2。2番目に重要な活動は、「祭りの実施」で14.9%、次に多かったのが「地域の清掃や美化活動」で12.3%です。

6ページになりますが、問16-3。3番目に重要な活動は、「地域の清掃や美化活動」で9.7%、次に多かったのが7ページになりますが、「高齢者の支援」で9.1%です。

この1位から3位を見ると、「地域の清掃や美化活動」が行政区として重要な活動だと考えられています。

7ページ、問17。『行政区の行動や活動に対する住民の協力』についてです。「積極的である」「比較的積極的である」を合わせると82.5%が、積極的であると答えられています。

こちらでも後でクロス集計を見てもらいたいと思いますが、三里校区と砥川校区については50%を超える行政区が「積極的である」と答えられています。

問18。『行政区の活動の問題点』についてです。複数回答です。一番多かったのが「高齢化」で98。いずれの校区でも一番多かったです。2番目に多かったのが「役員の引き受け手がない」64でした。

問19。『行政区の役割として重要なこと』についてです。問19-1が1番目に重要だと思われること、8ページになりますが、問19-2が2番目に重要だと思われることを記入してもらっています。

問19-1。1番目に重要だと回答されているのが、「地域内の住民の親睦を深めること」で51.3%、次に多かったのが、「地域における生活環境の維持管理」で33.8%でした。

8ページですが、2番目に重要だと回答されているのが、「地域における生活環境の維持管理」で31.8%、次に多かったのが、「地域の問題への自主的取り組み」28.6%でした。続いて「市への要望や働きかけ」が18.2%でした。

問20。『行政区への市からの支援』についてです。複数回答です。一番多かったのが「活動事例や助成情報の提供」で79、「活動経費についての助成」74、「市職員の積極的な地域活動への関わり」が71で、多方面にわたって支援が必要と回答をされていました。

問21。『今後のまちづくりについての意見』記入してもらった自由意見です。次のページ以降掲載をしておりますのでお読みください。

資料4-2ですが、こちらはクロス集計結果です。このクロス集計結果は、小学校区ごとに質問項目について回答件数、構成比率を記載しております。説明は省略しますが、後でご覧になってください。

以上で行政区（自治会）アンケートの調査速報について説明を終わります。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。行政区の区長さんたちにお答えいただいたものです。それぞれの質問項目もそうですし、後ろのほうに自由記載がありますが、区長さん大変だなと皆さんお思いでしょう。後ろのほうにある自由記述を私ざっと斜め読みしたんですけど、区長さんの悲鳴が聞こえてくるわけですね。こういう状況は当然やはり改善しなきゃいけないと皆さんお思いだと思います。どんなふうに改善していくかということはこの検討委員会で要は検討していくことになります。

これについても一つ一つ確認はいたしません、何か御質問、御意見、御感想等ございましたらお願いします。

○西岡委員

回答率をずっと数字見ていたんですけども、非常にこの8校区ですか、一番いいところは100%回収、悪くても60%ということで、60%、100%、どれだけの意識の違いがあるかなというのはちょっと思っていたんですけどですね。団体に比べれば地域の方が比較的回収されているということは、意識は高いというふうに感じましたけどですね。

○五十嵐委員長

これは区長が交代されてからのアンケートですよ。

○池田市民協働推進係長

そうです。4月の最初の区長会の際にアンケートの説明をして回答を依頼をしています。

○五十嵐委員長

だから、全く新しくなられた方はちょっとあえて留保したかもしれないですね、自分の判断で書く責任を感じられて、ひょっとして留保された可能性もありますよね、提出を。

○池田市民協働推進係長

そうですね。4月から新しくなったので、なかなかわからない部分もあると言いながら書いてこられた区長さんもいらっしゃいました。

○五十嵐委員長

そういう方もおられると思います。

○光石委員

済みません。

○五十嵐委員長

はい、どうぞ。

○光石委員

あわせて市民アンケート調査の回収結果が2,000人のうち回答が761人、有効回答が38.1%、これはどんなふうに見たらいいんですかね。

○五十嵐委員長

この種の市民アンケートを今まで市はやっていると思いますが、それと比べて、この回収率というのはどんな位置づけですか。

○大橋企画政策課長

回収率は、あと総合計画の市民アンケート等もとっておりますが、それからすると、やっぱり10%程度は低いです。

○光石委員

このアンケート調査がまちづくりの重要な基本資料になるわけですよね。それで、どの程度のものかなと思ってちょっと御質問をしましたがけれども、

○五十嵐委員長

はい、わかります。

○大橋企画政策課長

済みません。ちょっと訂正します。今、担当のほうでやっぱり総合計画の市民アンケートもそんなに高くないそうです。これに近い、ちょっといいぐらいの割合だそうです。

○池田市民協働推進係長

4割ぐらいですね。

○五十嵐委員長

この検討委員会が今後検討していく上で、このアンケートは重要なデータとして当然位置づけます。とはいえ、アンケートだけで全てが意味づけられるわけではございません。これから例えば、どこかの地域でワークショップみたいなものを作って、私たちがその場に出かけていくこともあるでしょう。時間をかけて市民の意識、団体の意識、あるいは区長さんの意識、そういったものを直接的に私たちが意見を徴集するということは当然大事なことでございます。そういう意味でアンケートはアンケートとして重視はいたしますが、これだけが全て的前提では当然ございません。そのあたりのこともお含みください。

今の行政区の自治会アンケートで何か御質問、御意見ございませんか。

この間7の区費ですかね、これはやっぱり合併前の慣習が反映されているんでしょうか？違うんですかね。合併前にそれなりに地域差があって、それがそのままここに反映されていることじゃないの。

○大橋企画政策課長

多分そういう調整はされていないと思うんですね。

○五十嵐委員長

されていない、していないでしょう。

○大橋企画政策課長

はい。

○五十嵐委員長

だから、新市になってこの区費のあり方を考えたこともないでしょう。

○大橋企画政策課長

ないですね。

○五十嵐委員長

そうですね。だから、それが多分引き継いでいるのかなという印象は私持ちました。

ちょっと私聞き忘れたな。これ飲み会どれくらいやっているかと聞いたかったんよね。飲みニケーション、結構大事だと私思うんですけど、どうなんですか。飲んべえの古川さん、いかがでしょうか。

○古川委員

大事だと思いました。

○五十嵐委員長

それなりにコミュニティ活動が盛んなところは、僕は結構飲み会多いなという印象を特に持っています。

何かございますか。区長さんアンケートで。

○眞子委員

さっきの飲み会の話ね、あれは昔からあったのはいいことなんですよ。

○五十嵐委員長

ええ、そうです。

○眞子委員

ところが、飲み会そのものが最近また高齢化してきて、若い人たちが入ってこない。

○五十嵐委員長

問14の認可地縁団体であるかないかということがどういうことに影響するのかとか、そういったことを新しく区長さんになられた方は認識されておられますかね。認可地縁団体の持っている意味、そんなことを区長さんたち、長いことやってこられた方は当然わかっていると思うんですけど、例えば、サラリーマンの方が突然区長になったと、そのときに認可地縁団体であるかどうかなんてということについて御理解できていますかね。そういうのは引

き継がれていくんですかね。

○大橋企画政策課長

担当課がちょっと違うので、そこら辺の詳しいことはわかりませんが、全体に対して説明会を毎年1回しているとか、そういうことはあんまり聞いていないので、区長さん、いかがですかね、本村区長さん何かそういう……

○五十嵐委員長

認可地縁団体だということでは何か。

○本村副委員長

だから、そういうことで相談に行った人は説明しますけれども、相談に行かなかったら何もありません。だから、市から積極的にしていませんから、やるべきなのか、やらないでそのままにしておくべきなのかということは私はわかりません。これは私の集落は地縁団体に参加をしていませんから、私はすべきでないという考え方ですからね。やっぱりそれはそれぞれの集落の構成なり考え、長の考え方がありますからね、それはお任せしなきゃしょうがないんじゃないでしょうか。

○五十嵐委員長

認可地縁団体であるかどうかということの意味は、これはこの検討委員会の中でやっぱりちょっと確認はしておく必要があると思います。これからいろんなコミュニティの協働のまちづくりをしていく上での組織のあり方にもかかわってきますので、ちょっとそれは担当課が違うかもしれませんが、一応事務的に確認してください。

○大橋企画政策課長

はい。

○五十嵐委員長

あとは問15以降ですね、どんな活動をやっているかということで、何ととっても道路や街灯の管理だとか清掃・美化活動ですね、そういったものがあって、それから、祭りというものも結構割合が高いだろうと思っています。このあたりは常識的なことかなという気はします。

問いの16-1で最も重要なものとして、やっぱり清掃や美化が挙がってきます。防災が意外と私高くないなと思ったんです。もう少し防災に多く出るかと思ったんですが、それほどでもない。全体としては高いほうかもしれませんが。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。問17あたりから区長さんの悩みが出てきます。

住民の協力は積極的ですかという問いに対して、比較的積極的であるというのが半分を超えています。これはクロスで行政区ごとに出るんですよ。

○池田市民協働推進係長

はい。

○五十嵐委員長

ちょっともう1つの表が細かい表なので、見るだけで頭痛くなるので見ませんが、問17、比較的積極的であると回答したのが半分を占めます。その中で特にどのあたりのところが積極的と感じているかみたいな傾向は分析することは可能です。

○池田市民協働推進係長

そうですね。クロス集計表の11ページの上の表になるかと思います。

○五十嵐委員長

クロス表の11ページの上の表。

○池田市民協働推進係長

問17で三里校区と砥川校区が積極的であると答えられた割合が50%を超えています。

○五十嵐委員長

はいはい、三里と……

○池田市民協働推進係長

三里と砥川。

○五十嵐委員長

砥川ですね。そこでは区長さんは積極的に活動に参加してくれているという答えをしているところとなります。

そういうふうに折に触れて、ちょっとどの地区なんだろうと思ったときにはこの資料4-2なんかを見ると、その地区別の違いが見えてまいります。

それから、問18では問題点でいうと、やっぱり高齢化が大きな割合を占めてまいります。何ととっても高齢化ですね。

それから、行政区の役割として重要なものでいいますと、一番多いのが地区住民の親睦を深めること、2番目に生活環境を維持管理することということになります。逆に言いますと、こういった順位を見れば、一つの行政区で何か新規に新しいことをやろうというようなことは多分出てこない、現状を何とか踏ん張って維持する、それで精いっぱいだというのが私

の印象なんです。区長さんの思いは。そういう中で、どうやって高齢化問題に対処するか、地域の親睦を高めていくかというようなことを考えた場合に、やはり私は一つの行政区単位での、ある意味限界みたいなものを私は感じています。皆さんどのように考えられるか、ちょっと考えていただければと思っています。

○秋丸委員

この高齢化は集落によっては若干変動のある……

○五十嵐委員長

そうです、そのとおりです。

○秋丸委員

小さい集落は行事とか長いことしてるが、高齢化やけん。その辺はやっぱり…。

○五十嵐委員長

当然高齢化問題を優先的に挙げているところは、当然高齢化率が高い自治会だと思っています。先ほどの地域別の絵をつけた地図があったと思いますが、ああいったものと見比べていけば、やはりそれぞれの自治会で抱えている問題、課題は当然違って来るだろうと私も思います。

それと、戸数規模ですよね、自治会の規模、世帯規模が大きいところとやっぱり小さいところでは問題の切実感が当然違うと思います。自治会長さんがほとんどの住人を知っているところと半分ぐらいしか知らんところでは、当然危機意識も違うだろうと私も思います。

○秋丸委員

その高齢化も、町部と農村部と若干違う。それなりに園芸部とか果樹組合とか、その中で区長と生産組合を引き受けると、もうしないとか、文句のする集落もあると思います。その辺がちょっと。高齢化、高齢化と言っても、高齢化は高齢化だが、また、回って高齢化やけん。新しく入ってきた人が年代になってしてくれるといいけど…。そういうわけにはいかないところある。いろいろ生産組合とか、部落の行事によっても、またこの役も違ってくると思いますよ。

○五十嵐委員長

はい、わかります。ですから、先ほどのこの地図で高齢化率の赤いところが周辺部と、それと、小城の例えば町なかに出てきます。この周辺部というのは、いわゆる農村地帯で高齢化率の高いところ、町なかでの高齢化率の高いところ、当然、高齢化の持っている意味だと

かは違うと思います。村のほうは高齢化率高いとはいえ、やっぱりそれなりに助け合いは強いだろうと思っています。町なかの高齢者が多いところだと、やはり助け合いの輪、きずなというのが農村部と比べれば弱い可能性があります。そういった地域的な違いというのものも、同じ高齢化問題でもやはり違いは出てくるだろうというふうにお考えになられればいいかと思っています。ありがとうございます。

自治会アンケート、よろしいでしょうか。これも自由記載のところ等も含めてといたしますか、この自治会アンケートはちょっと余り外に出さないほうがいいかなと、数字のほうも委員さんだけでとどめておいたほうがいいと私は思います。全てのこのアンケート結果について委員の方々取り扱いに御留意ください。

一応きょう予定しました議事は、このアンケート結果の報告を受けての意見交換といえますか、改めて皆さんにいろいろ御確認をいただいたということです。時間もございませんので、例えば市民アンケートでいいますと、後ろのほうに自由記載がたくさんございます。この自由記載、皆さんなるべく読んでください。お父さん方は一杯酒飲みながらでもいいですから、なるべく読んでください。一通り読んでください。済みません、お願いします。

以上で議事は終了いたしましたけれども、全体を通して何か御質問、御意見ございますでしょうか。はい、どうぞ。

○光石委員

前回、事務方から非常にまちづくり検討委員会に詳細な数字を挙げていただいたんですけど、グラフ化とか図示をしていただきたいということで、今回はいろんなグラフ化とか図示をしていただいて大変だったろうと思いますけど、大分わかりやすく、理解しやすくなったと思って感謝しております。

それと、もう1つ、今お話のあったように、この個人の自由記述なんかは非常に一個一個大事なことが、ポイントが隠れているんじゃないかなと思うんですよね。まだ読んでいないけど、資料をたくさんいただきますので、できれば事前に、二、三日でも前にでも、また、事務方御負担お願いしますけど、渡してもらえば、読まないかもわかりませんが、理解して説明していただくと、会議のレベルアップが図られるんじゃないかなと思っています。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。実は、例えば、この市民アンケートのほうだけでも事前に送ろうかという事務局の提案ございまして、1日か2日前ぐらいになりそうだとされたの

で、それだったら誰も読みはせんよと私が言ってしまいました。済みません。なるべくこういうデータにつきましては事前にお送りして見ていただくようにさせていただきます。次回まで結構ですから、ぜひとも自由記載も含めてこのアンケート結果をじっくりとお読みいただければと思います。ありがとうございます。

ほかに何か、全体を通して。はい、どうぞ。

○西岡委員

非常に貴重なデータいただいてありがたいんですけども、この市民アンケートの調査の中で非常に特徴的な設問がありまして、この設問の内容によって非常に顕著にあらわれたところがあるなと思って、ちょっと感じたことを申し上げたいと思います。

最後の問16ですが、まず……

○五十嵐委員長

市民アンケートですね。

○西岡委員

市民アンケートですね。問16ですが、まず、23ページのところでは、比較的5つの項目ございます。これが大体わずか4ポイントぐらいなんですね、ほとんど差はないんですよ。ということは何もここにはあらわれないんです。ところが、これを24ページにクロスしますと、極めて顕著な数字が出ているというところですね。私がちょっと注目したかったのは、29歳以下、特に2番目の項目ですね。「市政や地域活動情報を積極的に収集する」44.8%、「地域活動の内容を積極的にPRする」42.5%、「活動したいことを自由に発言できる環境をつくる」46%で、要するに意図するところがこれ出ているんじゃないかなと思っているんですね。若い者が要するにこれだけ環境があれば発言するよという意味合い持っているんじゃないかということですね。非常に極めて重要な内容がここにあらわれているんじゃないかということを感じました。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。全くそのとおりで、若か者が参加せん、若か者は何もせん、こう嘆いているんですけど、実際には若か者は機会とチャンス、あるいは方法、そういったものを工夫すれば、ちゃんと若い者は参加してくれる、協力してくれるという前提で考えていかなきゃいけないと、そういうことを暗示している数字だろうと私も思います。若い世代に私たちは大きな期待と可能性を持ってこれからのこの検討委員会でも進めていきたいと思

ます。

そういう意味でいいますと、この委員会に20代の委員が欲しかったよね。一番若い方で何歳ですか。古川さんが一番若いのかな。20代の委員が欲しかったよね。もし追加可能なら、何か20代の委員探してきてくださいよ。やっぱり20代の声は必要だと私も思います。

ほかに何か全体を通してございますか。はい、どうぞ。

○光石委員

非常にまちづくり検討委員会、小城市の将来を決定づけるんですけど、なかなか私ついていけない、スピードが速くてついていけない、内容がよくわからないところがあるんですけども、何か一緒に集まって、委員同士集まって質問するとか、問題提起するとか、そういう場所をつくってもらえないかなと。

○五十嵐委員長

この後、それを御提案させていただきますので、はい、ありがとうございます。私もそれは必要と思っております。

○光石委員

「ようこそ」でもおっしゃっていたけど。

○五十嵐委員長

はい、わかりました。はい、どうぞ。

○大坪委員

済みません。社会福祉協議会の立場でちょっと提案をさせていただきます。

この資料と全体像で各行政区とか校区の実情とか高齢化、少子化の実情がわかったと思うんですけども、特に行政区のアンケートのほうで18番、各地区、校区関係なく高齢化の課題が如実に出ていると思います。社協のほうでも地域介入でふれあいサロンとかしているんですけど、やっぱり少数世帯の行政区ではそういった地域で見守ったり、支えたり、触れ合い活動する、活動自体が負担、できない、そうだったらば、やっぱり同じ校区で話し合っできるものは自治会同士、諸団体同士で連携するような仕組みをつくっていかないといけないと思いますので、次年度なんかで地域に出てワークショップされるときには、校区毎で住民と関係機関で実情を把握することをすれば、先に進むのかなと思いましたので。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。一つの小さな自治会単位ではやっぱり限界があって、校区

レベルでいろんな団体が協力し合えば、まだまだ改善できる、よくなるということでございます。そういうワークショップみたいなものも当然計画をしております。

ちょっとそれに関連しますけれども、今後の予定につきまして事務局から御提案がござい
ます。お願いします。

○池田市民協働推進係長

次第の下のほうになりますけれども、今後の予定を記載しております。

第2回の検討委員会は先進地視察を予定しております。7月6日月曜日です。13時集合。
市のバスで行きたいと思っておりますので、市役所西館玄関前に集合していただきたいと思
います。場所は、大野城市役所。コミュニティ文化課の話を知りたいと思っています。大野城市は、
コミュニティ活動の先進地として全国各地から視察に来られています。さまざまな取り組み
をされていますので、ぜひ参考にできればと思っております。

第3回の検討委員会は7月30日木曜日、14時から予定をしております。場所は今回と同じ
こちらの大会議室で開催したいと思っています。内容ですが、今、検討をしていますが、検
討委員会の皆さんと職員とのワークショップを実施できればと考えております。

以上です。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。本来であれば、当初、この検討委員会と市民とのワーク
ショップみたいなものがないかということ想定しておりました。その前に、まず、市
の職員の意識をもう少し盛り上げたいと、高めたいという意味ではございません、盛り上げ
たいということもございまして、市民協働担当の職員が市の中にたくさんおられます。そう
いった方々から何人か集まっておきまして、検討委員会とその職員を交えた形でのこの
協働のまちづくりに関する何かワークショップみたいなものをしてほしい。それはつまり、この
検討委員会の私たち自身もその中に入って一緒になって考えるということでございます。そ
ういったことをちょっと計画しております。まだ中身、具体化はしておりませんが、
とりあえず7月6日に先進地視察、それから、7月30日に3回目の検討委員会を開催させて
いただくということでございます。

○池田市民協働推進係長

通知のほうは追ってお出します。

○五十嵐委員長

わかりました。議事はこれで終了します。事務局どうぞ。

○大橋企画政策課長

皆さん大変お疲れさまでした。今日は市民アンケートから市民活動団体、自治会のアンケートを中心に御報告をさせていただきました。私たちもまだこれをうまく分析ができていませんが、おぼろげながら一つ私が感じるのは、やっぱり小城市全体での一つの共通の課題というような話ではなくて、いろんな地域によって課題というのは違ってというのがよくわかったような気がいたします。また、年齢によっても意識の持ち方、感じ方が違う。そういったところに対してどういうふうな情報をどういう手段で出していくのかというのは、本当に難しいことだと感じております。

この協働によるまちづくりの目的の一つは、そういった課題に対して一つの行政区ではもうこれから先のことを考えると、どうも自分たちだけでは解決できない問題、そういうものが多々あるのではないかと。そういうものを少し枠を広げてみんなで話をして、課題を整理して、そして、市が役割を担うところは市が担い、市民側、あるいはそういった共同体でかわりを持ってやるべきところはやるというような、そういった整理の仕方を今から検討していかないといけないのかなということです。これは究極というか、結果的には行政の仕事のやり方というものを見直していかないと多分できないだろうというふうにも思っております。

そういう意味で、どういう協働のまちづくりのやり方があるのか、そういったことをいろいろ資料を見たり、現地視察をしながら、皆さんで話し合っって一つの方向性を出していければいいのかなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いをしたいと思います。

それでは、次回は視察ということで7月6日、追ってまた案内を出させていただくということでございます。

それと、後ろのほうに行政の職員が来ております。こちらは、この協働によるまちづくりにかかわる関係課の職員がみんなで庁内の検討の委員会をつくっております。そちらのほうから来ていただいて、ここで話されることをみんなで情報共有しようということで同席をさせていただきます。今後とも視察等でも一緒になるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、これもちまして27年度第1回目の検討委員会を閉じさせていただきます。いろいろと大変お疲れさまでした。終わります。

午後3時50分 閉会